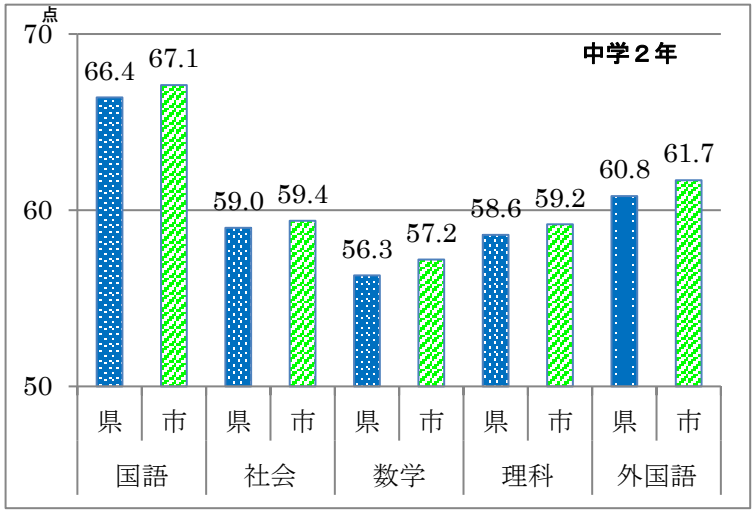
令和６年度千葉市学力状況調査結果概要（中学校版）

１　県と本市の平均得点との比較



【県平均と比べておおむね良好】

中学校２年では、県平均と比較して国語 0.7、社会 0.4、数学 0.9、理科 0.6、英語 0.9 ポイント上回っており、５教科全てで県平均を上回るという良好な結果となった。

２　各教科の改善策

【国語】　構成や段落のつながりに目を向けた学習機会の設定

○相手を説得する文章において、「事実」と「意見」を分け、段落の文頭を問う問題では無回答率が 12%と高い。内容や構成を見分ける力をもつことは、自分の文章を論理的にし、説得力をもたせる文章を書くことへとつながるため、小学校で学習した「つなぎ言葉（接続語）」を想起させながら構成や段落のつながりに目を向けた学習機会を設ける。
○短歌の鑑賞文を読むことで、その短歌の内容について表現の巧みさや魅力、情景や込められている思いを捉えることができる。韻文の味わい方について学んだことを生かして、自分でも様々なことを想像したり、よいところを見付けたりしながら韻文を鑑賞し、生徒が自らの作品のよさや解説ができるような学習機会を設定する。

【社会】　つながりを考慮した課題を追究したり、解決したりする学習活動の実施

○世界や日本の諸地域を繰り返し学習する中で、同一地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取る等の意図的・計画的な指導が必要となる。その際、生徒の実態に合わせて資料の難易度を選択する。
○各時代の特色や諸外国との関連性を理解するためには、各時代の歴史的事象に関する背景や前後関係、諸外国とのつながり等を考慮した課題（問い）を設定し、その課題を追究したり、解決したりする学習活動を行う。

【数学】　数学的な表現を用いて説明し伝え合うような授業改善の実現

○一次関数の変化の割合を指導する際には、形式的に変化の割合を計算して求めることに偏らないようにするとともに、変化の割合を事象の考察やその表現に適切に用いることができるようにする。
○同様に確からしい事象の確率を求める指導に当たっては、実際に多数回の試行によって得られた確率と場合の数を基にして求めた確率とを関連付けて、求めた確率を理解できるようにする。また、樹形図や二次元の表などの数学的な表現を用いて説明し伝え合うことを通して、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現できるようにする。

【理科】理科の見方・考え方を働かせて考察し、科学的な根拠に基づいて議論する活動の実施

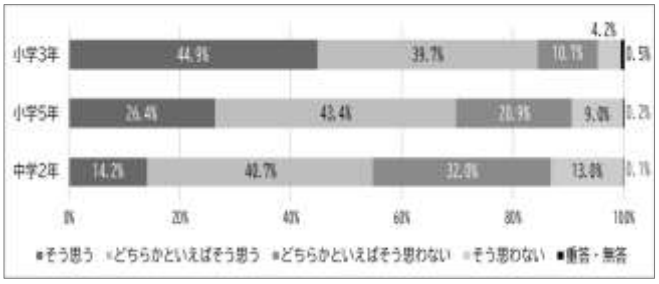
○からだの器官の名称に対する知識はあるが、他の器官と連携してどのような働きをしているかの理解が不足している。生徒が単元を貫く問いをもったり、既習事項との関連性を見いだしたりしながら理解するとともに、学習内容の有用性を実感できるようにする。
○観察・実験について結果を基に理科の見方・考え方を働かせて考察し、科学的な根拠に基づいて議論するなどの時間を十分に確保し、対話的な学びを推進する。さらに、自ら問いを立て、科学的に探究し、課題を解決する力を育むために、実生活や新たな問題解決の場面で学習内容を活用する機会を設定する。

【英語】 活動の合間の指導などで適切に指導する授業づくりの実現

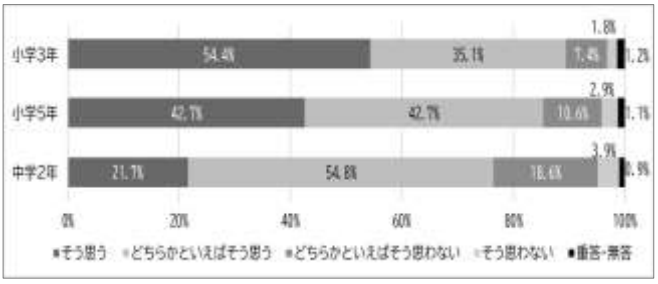
○How という語は疑問詞として疑問文に使われるだけでなく、感嘆文でも用いられる。感嘆文は日々の言語活動の中で、やり取りを充実させる表現として定着させる必要がある。生徒が自然に感嘆文を用いた表現を行うことができるようになれば、やり取りの言語活動は活発で楽しめるものになり、会話を楽しみながら英語を学ぶ授業を作り上げることができる。言語活動を充実させた中で、英語使用の正確さについても活動の合間の指導などで適切に指導する授業づくりをする。
○「読むこと」において、思考力・判断力・表現力等を育むためには、内容そのものを捉えるだけでなく、目的・場面・状況に応じて、概要や要点、必要な情報を捉える活動を行う。

3　学習に対する意識（勉強が好き・わかる）

①学校の勉強が好きだ

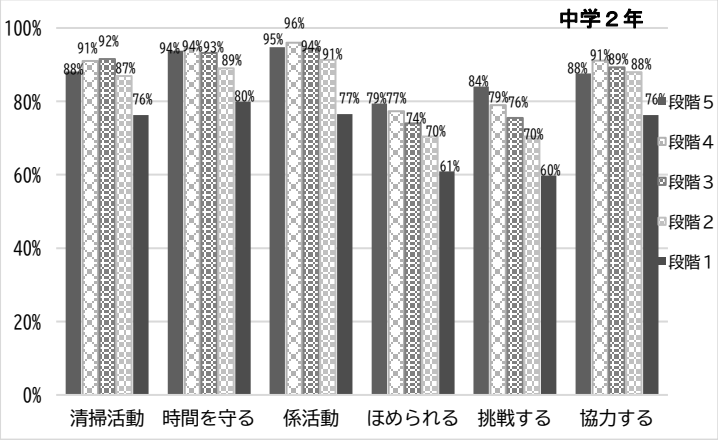


②学校の勉強がよくわかる



千葉市では「わかる授業」の推進を目標としている。中学２年では、小学校と比べて「勉強がよくわかる」の肯定的回答率が低くなる。「勉強が好きだ」の肯定的回答率は、「勉強がよくわかる」の肯定的回答率より大幅に低い。一人一人のよい点や可能性、進歩の状況等の積極的な評価をすることで、「勉強が好きで、わかる」姿を目指していく。

4　学力と学校生活との関連

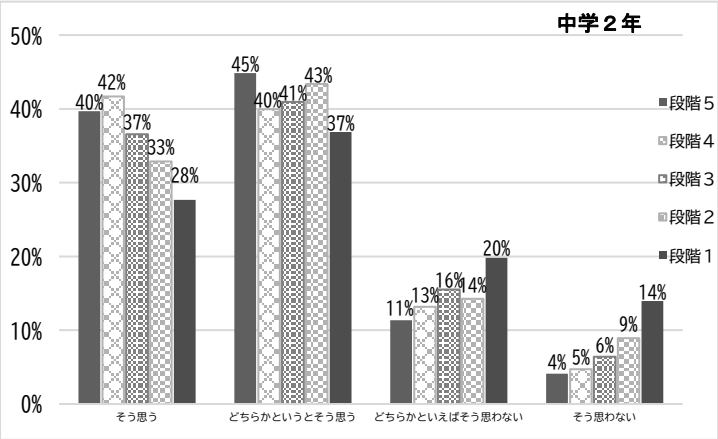


成績上位群を段階５とし、段階５より段階４、段階３、段階２、段階１と示している。

学力の状況によって生徒の意識に差が見られる

学校生活の態度についての質問における肯定的回答は全体的に高い傾向にあるが、学習状況が不十分な段階である生徒については肯定的な割合が低い。「ほめられる」という項目については、学習状況が十分である生徒と不十分である生徒の意識の差が 10 ポイント以上あり、学習状況が不十分な生徒の意識を高めることに留意した教育活動をする必要がある。

5　自己に関する意識　○あなたは、自分によいところがあると思いますか。



成績上位群を段階５とし、段階５より段階４、段階３、段階２、段階１と示している。

自己肯定感と学力検査の得点との関連

「自分によいところがある」という意識は、学習状況との関連が見られる。本市では、知識や技能の習得に加え、他者に貢献する経験を重視している。中学校では、仲間と議論したり、課題を解決したりする活動を通して、自分の考えを形にし、周囲から認められる機会が増える。そうした経験を積み重ねることで、自分を肯定的に理解し、学びに向かう意欲や自信を育てることができる。中学校の時期にこの力を育むことが、将来の学びや社会生活の基盤となる。